

CAPDの副作用と限界

CAPDでは腹腔内にカテーテルが入っているため、何らかの原因でばい菌が入ると腹膜炎が起こります。

しかし、腸が破れて起こるような重症の腹膜炎と異なり、抗生物質などによって比較的容易に治ります。

しかし何回も繰り返す患者さんは、カテーテルの入れ替えなどを要する事もあります。

CAPDでは腹腔内に透析液を常時貯留することによって、徐々に腹膜が傷んでいきます。

透析液の内容も様々に工夫されてきていますが、現状では8 - 10年以上続けると、腹膜が傷みすぎて、命にかかわる合併症(被嚢性腹膜硬化症)が起こる危険性があります。

このため、CAPDは8 - 10年が限度と考えて下さい。透析液がもっと良くなれば、さらに長く続けられるようになるでしょう。

また最近では、血液透析とCAPDを併用する事によって、さらに長期間、さらに楽な透析ライフを行う事のできる試みがなされています。